

# 『アートは社会の役に立つのか？ ～文化芸術とまちづくり』

2018年3月に松山市文化芸術振興計画が策定されました。計画では文化芸術のクリエイティブな発想や価値観が、まちづくりや教育、福祉、産業などさまざまな領域に活かされていくことを目指しています。文化芸術＝アートが社会のさまざまな場面で役立つとはどういうことなのでしょうか？文化芸術を担う市民や文化団体にはどのような役割や関わり方があるのでしょうか？

本シンポジウムでは、さまざまな地域での実践や事例を踏まえながら、アートの社会での有用性を問い直し、市民が「文化芸術の当事者」となるための多様な視点を参加者の皆さんと共有していきます。

第1部 13時30分～14時30分

〈レクチャー〉

松山の文化シーンの変遷を見る

— 徳永高志

〈基調講演〉

市民目線の文化政策～産業・生活・共生

— 伊藤裕夫

第2部 14時40分～16時30分

〈パネルディスカッション〉

「アート、社会、市民」

パネリスト：伊藤裕夫 大澤寅雄 宮下美穂 徳永高志

進行：戸舘正史

2018年11月3日(土) 13時30分～16時30分(休憩あり)

会場 ▶ 愛媛大学共通講義棟A11番教室

登壇者 ▶ 伊藤裕夫 (文化政策研究者、日本文化政策学会前会長)  
大澤寅雄 (ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員)  
宮下美穂 (NPO法人アートフル・アクション事務局長)  
徳永高志 (NPO法人クオリティアンドコミュニケーションオブアーツ理事長)

進行 ▶ 戸舘正史 (愛媛大学社会共創学部助教、松山ブンカ・ラボディレクター)

申込み ▶ 参加申込みフォームにアクセスいただき、  
必要事項をご記入の上お申し込みください。  
[www.secure-cloud.jp/sf/1535685709RuUBdcJY](http://www.secure-cloud.jp/sf/1535685709RuUBdcJY)  
またはメールにて参加の旨をご連絡ください。  
[todate.masafumi.xc@ehime-u.ac.jp](mailto:todate.masafumi.xc@ehime-u.ac.jp)



参加費 ▶ 無料

定員 ▶ 200名(先着順)

## 会場ご案内

- 伊予鉄道市内環状線「松山赤十字病院」下車、北へ徒歩2分(「大街道」からは北へ徒歩15分)
- 愛媛大学城北キャンパス正門をに入って右へお進みください。図書館を過ぎて左手に見える「共通講義棟A」が会場です。

※駐車場をご用意していません。

## ゲストプロフィール



伊藤裕夫  
日本文化政策学会前会長

1948年生まれ。東京大学文学部卒業後、広告会社、シンクタンクを経て、2000～2006年 静岡文化芸術大学教授、2006～2011年 富山大学芸術文化学部教授。現在は、静岡文化芸術大学、立教大学等の大学院で非常勤講師のほか、神奈川県文化芸術振興審議会会長等を務める。専門は、文化政策、アートマネジメント。近著に、『公共劇場の10年』(共編著・美学出版、2010)、『芸術と環境』(共編著・論創社、2012)など。



大澤寅雄  
ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室/文化生態観察

1970年滋賀県生まれ。(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー。共著『これからのアートマネジメント「ソーシャル・シェア」への道』[文化からの復興 市民と震災といわきアリオスと]、『文化政策の現在3 文化政策の展望』[ソーシャルアートラボ 地域と社会をひらく]。



宮下美穂  
NPO法人アートフル・アクション事務局長

専門はランドスケープデザイン。東京都小金井市の小金井アートスポットシャトー2Fにて、ギャラリー、カフェの運営。2011年より小金井アートフル・アクションの事業運営に携わる。小金井市芸術文化振興計画推進事業では、さまざまなアーティストとともに小学校での授業や市民の方々と協働したワークショップなどを行っている。共著に『文化政策の現在』。



徳永高志  
NPO法人クオリティアンドコミュニケーションオブアーツ理事長

1958年岡山市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文化政策学)。茅野市民館・美術館コアアドバイザー。内子座、町立久万美術館、淡路人形座のほか、伊予市、神戸市の文化施設計画や文化政策にもかかわる。慶應義塾大学大学院アートマネジメントコース非常勤講師。著書に、『芝居小屋の二十世紀』(1999年、雄山閣)、『公共文化施設の歴史と展望』(2010年、晃洋書房)、『内子座』(2016年、学芸出版社)など。